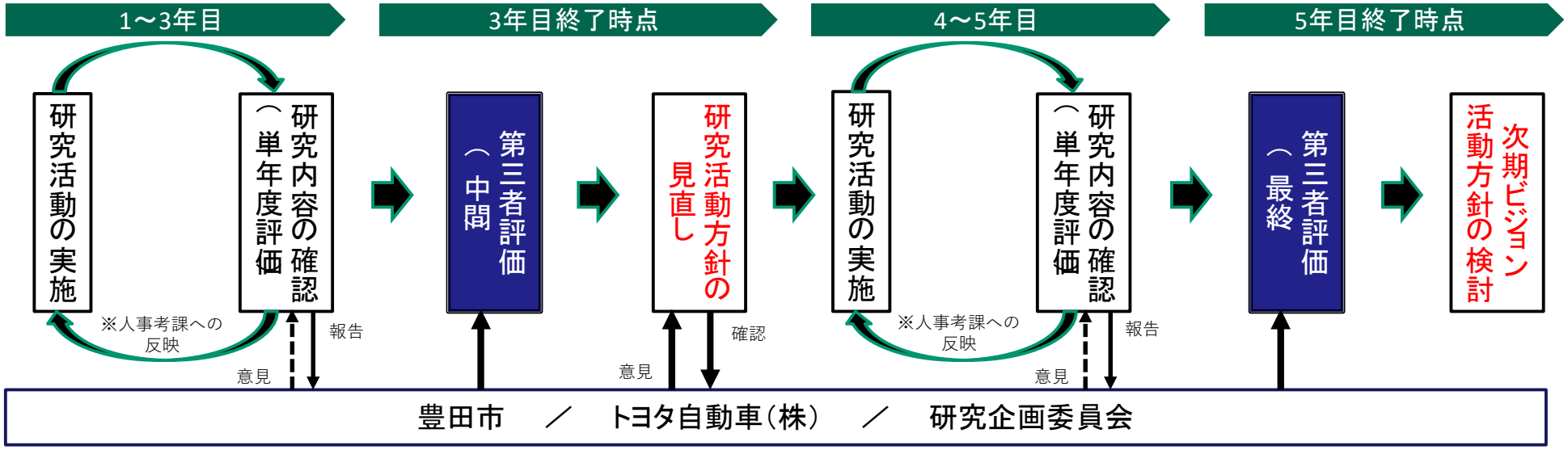
令和５年度 研究活動の評価について

１．第３次中期ビジョンにおける評価の仕組み

- 第三者※評価を取り入れ、自己評価とのギャップを測りつつ、PDCA を回す。　※ 豊田市･トヨタ自動車･研究企画委員会(有識者)
- 研究所の「役割」毎に設定した「あるべき姿」を客観的に示す指標により評価し、人事考課制度と連動させて実効性を高める。
- **単年度評価**：論文発表や外部機関からの受注、情報発信などの実績を示す確認指標（３６指標）により自己評価し、第三者から自己評価に対するコメントを拝受⇒各研究員の個人目標設定の参考とする。
- **中間・最終評価**：３指標、６基準で設定した評価指標により、３年目、５年目に評価（自己評価＋第三者評価）



評価指標（中間・最終）

役割	あるべき姿	評価指標	評価基準（最終年次）
広義の都市交通の研究	地域の課題や社会ニーズを的確に捉え、活発な研究活動がなされている	研究領域のカバー率（政策提言・査読付き論文発表を実施した方針数）	①暮らし領域：7方針 ②安全領域：5方針
交通まちづくりの推進	関係機関との緊密な連携のもと、研究成果を社会貢献に結びつけている	事業化に至った政策提言・研究所主導の研究の件数	①政策提言：2件 ②研究所主導の研究：4件
世界への情報発信と貢献	情報発信が研究の発展や事業化の広がりに繋がっている	情報発信が起点で共同研究・他都市への横展開に発展した件数	①共同研究：20件 ②横展開：2件

２．令和５年度の単年度評価結果（36 の確認指標による自己評価と第三者からのコメント）

【役割① 広義の都市交通の研究】

目標（5年後のあるべき姿）				地域の課題や社会ニーズを的確に捉え、活発な研究活動がなされている							
確認項目			確認指標	単　位	今年度結果※2	昨年度結果※2	活動状況※3	自己評価	第三者評価（市）	第三者評価（トヨタ）	第三者評価（研究企画委員）
1）	論文の発表状況	1	査読あり国際論文数	一人あたり論文数	1.1	0.3	【傾向；○】 ・すべての一人あたりの論文数が上昇 ・特に査読ありの国際論文数が上昇 ・論文賞等の受賞が1件あった	昨年度より査読あり論文数が増加しており、加えて論文賞を受賞するような質の高い研究が行えている。 研究領域別の研究実施状況は初年度であるものの、査読あり・査読なし論文のカバー率はすでに6割に到達している。他方で自主研究のカバー率は1割とやや低い。 件数は減少したものの、昨年度に引き続き競争的研究資金が獲得できているなど、研究員の質の高い研究が実施できている。 総じて本役割についてはあるべき姿に向けて順調に推移しているものと考える。	・指標に示す成果について評価できる。 ・引き続き、市民の関心の高いテーマを抽出し、本市の都市交通の改善に向けた取組を進め、研究所のプレゼンスを高めるような成果を期待する。	1） 全ての一人あたりの論文数が上昇しており、論文賞の受賞もあって質も高い研究が実施できている。 2） 自主研究のカバー率が低下しているが、方針に沿って受託研究を優先したのであれば問題無いと考えます。 3） 競争的研究件数は減少しているが、昨年度に引き続き競争的研究資金が獲得できていることは評価できる。 総じて本役割についてはあるべき姿に向けて順調に推移しているものと考える。	過去5年間ほどで研究の質は次第に上がっていると感じられる。その成果が論文数の増加に現れている。 さらに研究の質を上げるためには、大学の若手研究者との共同研究が有効かと思われる。大学研究者にも、フィールドやデータの提供などでwin-winに感じてもらえるテーマ設定が必要かと思う。
		2	査読あり国内論文数	一人あたり論文数	1.6	1.2					
		3	査読なし国際論文数	一人あたり論文数	0.7	0.1					
		4	査読なし国内論文数	一人あたり論文数	2.4	1.8					
		5	論文賞等の受賞件数	件数	1	0					
2）	研究領域別の研究実施状況	6	研究領域別の受託研究のカバー率	方針（累計）※1 ÷全方針	0.4	(0.2)	【傾向：△】 ・昨年度より受託研究のカバー率が上昇している一方、自主研究のカバー率が低下				
		7	研究領域別の自主研究のカバー率	方針（累計）※1 ÷全方針	0.1	(0.4)					
		8	研究領域別の査読あり論文のカバー率	方針（累計）※1 ÷全方針	0.6	(0.6)					
		9	研究領域別の査読なし論文のカバー率	方針（累計）※1 ÷全方針	0.6	(0.7)					
3）	競争的研究資金の獲得状況	10	競争的研究資金獲得件数	件数	5	10	【傾向：△】 ・昨年度からは減少したものの、競争的研究資金（科研費）を5件獲得できている				
		11	競争的研究資金獲得金額	万円	220	600					
自己評価を踏まえたアクション				研究領域別の自主研究のカバー率がやや低い（方針⑥：誰1人亡くならない交通の実現のみ達成）ことから、より**多様な方針に目を向けた自主研究の拡大推進**に取り組む							
第三者評価を踏まえたアクション				大学等の研究機関に所属する**若手研究者との共同研究**に取り組む							

※1方針：研究を実施、論文を投稿した方針の数、全方針：暮らし領域7方針、安全・安心領域5方針（両分野に共通する2方針を各領域の方針に算入、全体では10方針）
※2集計期間：今年度：令和5年4月～令和6年3月末日（令和6年2月末日段階で確定しているものを含む）、昨年度：令和4年4月～令和5年3月末日
※3昨年度からの傾向：○：改善、△：どちらともいえない、×：悪化

【役割② 交通まちづくりの推進】

目標（5年後のあるべき姿）				関係機関との緊密な連携のもと、研究成果を社会貢献に結びつけている							
確認項目			確認指標	単　位	今年度結果※1	昨年度結果※1	活動状況※2	自己評価	第三者評価（市）	第三者評価（トヨタ）	第三者評価（研究企画委員）
4）	政策提言の実施状況及び提案の効果	12	政策提言の件数	件	2	2	【傾向：△】 ・昨年度と同数の政策提言を実施 ・事業化や受託研究に発展した政策提言はなかった	政策提言からの事業化は今年度はみられなかったものの、自主研究から2件が事業化・受託研究に発展しており、社会貢献につながる研究成果が導出されている。 受託金額、件数ともに昨年度を大きく上回っているとともに、新たな受託先の開拓ができているなど昨年度より大きな改善が図られている 豊田市などの行政機関等からの要請による委員会活動も増加しており、良好な社会貢献活動が図られている。 総じて、本役割でのあるべき姿の実現に向けて順調に推移していると考える。	・研究活動については概ね評価できる。 ・引き続き、本市が抱える行政課題を的確に捉え、行政の後押しとなるような研究所ならではの政策提言を期待する。 ・交通事故情勢に基づく研究所ならではの政策提言を期待する。 ・公共交通分野、交通安全分野への更なる貢献に期待する。 ・受託事業の件数増加については一定の評価はできるが、受託の成果や作業のプロセスにも目を向け、継続して受託できるよう、質の高い研究活動を期待する。	各項目共、概ね適切に推移していることは理解できましたが、都交研の設立目的を踏まえて、更なる活発な政策提言を期待します。 又、弊社技術部門との新たな連携に際しては、貴研究所の要望をお聞きした上で、当部も一緒に協力させて頂きます。	受託研究の数と金額が増加したことは評価できる。とくに豊田市以外の自治体からの受注増は、研究所のプレゼンスが上昇してきていることの表れかと思われる。社会貢献活動の増加にもそれが表れている。
		13	事業化（社会実装）に発展した政策提言の件数	件（累計）	0	2					
		14	受託研究に発展した政策提言の件数	件（累計）	0	0					
5）	外部機関からの受託研究の受注状況	15	豊田市からの受注件数（金額）	件 （万円）	7 （1570）	5 （811）	【傾向：○】 ・件数、金額ともに昨年度を上回っている。 ・特に今年度は豊田市以外の行政機関（愛知県）からの受託が増えた				
		16	豊田市以外の行政機関からの受注件数（金額）	件 （万円）	1 （290）	0 （0）					
		17	行政機関以外からの受注件数（金額）	件 （万円）	7 （2518）	4 （2248）					
6）	地域と連携した自主研究の実施状況	18	テーマ設定時や研究遂行時に地域（関係者）と連携した自主研究の件数	件	5	5	【傾向：○】 ・昨年度同様、より地域と連携した自主研究が5件あった ・事業化や受託に発展した自主研究（生活交通、ヒヤリハット）が1件増えた				
		19	事業化（社会実装）に発展した自主研究の件数	件（累計）	2	1					
		20	受託研究に発展した自主研究の件数	件（累計）	1	0					
7）	社会貢献活動の実施状況	21	豊田市から要請のある委員、講師、地域支援活動等への参画件数	件	5	3	【傾向：○】 ・豊田市からの要請、行政機関以外からの要請による委員会活動等が昨年度より増加した				
		22	豊田市以外の行政機関から要請のある委員、講師、地域支援活動等への参画件数	件	4	4					
		23	行政機関以外から要請のある公益性のある活動への参画件数	件	3	2					
自己評価を踏まえたアクション				事業化、受託研究に通じる政策提言の立案に向けた準備（**行政ニーズの把握機会の構築、提案内容検討の場の強化、柔軟な自主研究の在り方検討**、等）により力を入れていく							
第三者評価を踏まえたアクション				受託者に対する事業品質評価の依頼を検討（評価シートの作成、など）（フィードバックの仕組の構築）							

※1集計期間：今年度：令和5年4月～令和6年2月末日、昨年度：令和4年4月～令和5年3月末日
※2昨年度からの傾向：○：改善、△：どちらともいえない、×：悪化

【役割③ 世界への情報発信と貢献】

目標（5年後のあるべき姿）				情報発信が研究の発展や事業化の広がりに繋がっている							
確認項目			確認指標	単　位	今年度結果※1	昨年度結果※1	活動状況※2	自己評価	第三者評価（市）	第三者評価（トヨタ）	第三者評価（研究企画委員）
8)	他都市への横展開状況	24	他都市からの問い合わせ件数	件	0	1	【傾向：○】 ・他都市での事業化件数（ヒヤリハット）が大きく増加した	ヒヤリハットの取り組みが他都市で広く展開されており、今後もさらなる発展が期待される。 研究成果報告会やまちべん等、市民向けを含めた情報発信活動を実施しているが、従来通りであり、さらなる発展にまでは繋げられていない。 WEBでの情報発信活動が強化できていないこともあり、HPの閲覧数の減少が生じている 昨年に比べるとマスコミへの情報提供・報道件数が減少しており、アピール活動の強化が望まれる 総じて、ヒヤリハットの他都市展開はみられるものの、新たな「武器」となる活動の強化が必要と考える。	・セミナーの実施やマスコミへの情報提供などの情報発信活動をより活発化し、市民や企業等へ研究成果を広く展開していくことを期待する。 ・また、これら成果が収益の増加など経営の安定化に結びつくことが重要と考えている。事業効果を見据えた活動に期待する。 （全体的に） ・指標の達成状況に対する評価だけではなく、研究所の活動が最終的にどのように社会活動の中で活かされているのかを全体総括として取りまとめてみてはどうか。	研究成果発表会参加者が、22年が76名、23年が35名と少ないため、PR方法の工夫や平日昼間の開催を見直すことも検討してはどうか。 「まちべん」は、見直し案を早期に実行して頂き、盛り上がりを図ってほしい。 又、もっと学生の参加を促すことで、おもしろい展開があるかと思います。 <総評> 目的の達成に向けて、３者の特性を最大限に生かして更なる活性化を進めて頂き、豊田市がモデルとなった成果を増やし、他都市の課題解決やまちづくりに繋げられることを期待しております。	ヒヤリハットの他都市での事業化が進んだのは良かった。 その他のアウトリーチ活動については前年と変わらず、中長期的戦略を考えるべき時期かと思われる。
		25	他都市での事業化件数	件（累計）	4	0					
9)	情報発信活動の状況 イベントによる	26	シンポジウムの開催数	件	0	0	【傾向：△】 ・昨年度と概ね同等の傾向であるものの、セミナー実施数、イベント出店数が若干減少した				
		27	報告発表会の実施数	件	1	1					
		28	講習会、セミナーの実施数	件	8	10					
		29	イベントの出展数	件	3	2					
10)	情報発信の状況（HPの活用）	30	研究所HPの閲覧数	回	4776	6295	【傾向：△】 ・HPの閲覧数がやや減少傾向				
		31	研究所WEBコンテンツ（Youtube、事故マップ等）の閲覧数※3	回	-	-					
11)	情報発信の状況（マスコミの活用）	32	マスコミへの情報提供件数	件	1	4	【傾向：△】 ・マスコミによる報道件数、報道件数ともに昨年度より減少したもののいずれも1件以上実施				
		33	マスコミによる報道件数	件	4	8					
12)	情報発信活動の効果	34	発信した情報に対する問い合わせ件数	件	3	1	【傾向：○】 ・発信した情報に対する問い合わせ件数が増加した				
		35	講演、講習会、セミナー等の依頼件数	件	8	7					
		36	情報発信が起点で共同研究に発展した件数	件（累計）	0	1					
自己評価を踏まえたアクション				情報発信強化に向けたHPの改善（企画管理部）、研究所の「強み」を踏まえた発信内容（「強み」の実績整理（研究部））・方法（研究成果報告会・まちべんの改善（企画管理部））の検討							
第三者評価を踏まえたアクション				まちべんの**学生へのアプローチ**検討、「強み」の「社会での活かされ方」の強調							

※1集計期間：今年度：令和5年4月～令和6年2月末日、昨年度：令和4年4月～令和5年3月末日
※2昨年度からの傾向：○：改善、△：どちらともいえない、×：悪化
※3youtube等WEBコンテンツへの対応ができていなかったため、次年度以降より集計

【令和5年度 評価の総括】

第３次中期ビジョンに基づき研究に取組んだ初年度である令和５年度は、年度途中での研究員退職や病欠により人的資源が低下した状況にありながら、３つの役割における確認指標は概ね良好な成績を示しており、「あるべき姿」の実現に向けて順調に活動を推し進めています。特に「役割②交通まちづくりの推進」では、地域と密接に関わる実践的研究事業に多く取り組むとともに、他都市や行政以外からの依頼に対応し、豊田市での研究成果の横展開を図ることができました。

主な課題としては「役割③世界への情報発信と貢献」に関して、研究成果報告会や「まちべん」に対する改善を指摘する意見が第三者から寄せられていることへの対応が急務と捉えています。

自己評価結果と第三者コメントを踏まえ今年度の活動で留意するポイント

役割①広義の都市交通の研究（あるべき姿 ：「地域の課題や社会ニーズを的確に捉え、活発な研究活動がなされている」）

- 研究領域別の自主研究のカバー率がやや低い（方針⑥：誰1人亡くならない交通の実現のみ達成）ことから、より多様な方針に目を向けた自主研究の拡大推進に取り組む
- 大学等の研究機関に所属する若手研究者との共同研究に取り組む

役割②交通まちづくりの推進（あるべき姿 ：「関係機関との緊密な連携のもと、研究成果を社会貢献に結びつけている」）

- 事業化、受託研究に通じる政策提言の立案に向けた準備（行政ニーズの把握機会の構築、提案内容検討の場の強化、柔軟な自主研究の在り方検討、等）により力を入れていく
- 受託者に対する事業品質評価の依頼を検討（評価シートの作成、など）（フィードバックの仕組の構築）

役割③世界への情報発信と貢献（あるべき姿 ：「情報発信が研究の発展や事業化の広がりに繋がっている」）

- ヒヤリハットの他都市展開はみられるものの、新たな「強み」となる活動の強化が必要と考える
- 情報発信強化に向けたHPの改善、研究所の「強み」を踏まえた発信内容（「強み」の実績整理）・方法（研究成果報告会・まちべんの改善）の検討
- まちべんの学生へのアプローチ検討、「強み」の「社会での活かされ方」の強調